

【C年^{ねん}】

復活節第二主日^{ふっかつせつだい しゅじつ}

全能^{ぜんのう}の父^{ちち}よ、あなたはわたしたちを罪^{つみ}から救^{すく}うため、独^{ひと}りの
み子を死^しに渡^{わた}し、また義^ぎとするためによりみがえらせてくだ
さいました。どうか悪意^{あくい}とよこしまのパン種^{ぱんね}を除^{のぞ}き、常にま
この信仰^{しんいう}と清^{きよ}い行^{おこな}いをもつてあなたに仕^{つか}えさせてください。
主^{しゅ}イエス・キリストによってお願い^{ねが}いたします。アーメン

司祭 「聖書^{せいしょ}のみ言葉^{ことば}を聞きましよ」

会衆は着席する。

聖書^{せいしょ}

朗読者 「聖書^{せいしょ}は使徒言行録第五章十二節^{しとげんこうろくだい しやう せつ}から」

12 使徒^{しと}たちの手^てによって、多^{おほ}くのしるしと不思議^{ふしぎ}な業^{わざ}と
が民衆^{みんしやう}の間^{あいだ}で行^{おこな}われた。

17 そこで、大祭司^{だいさいし}とその仲間^{ななかま}のサドカイ派^はの人々^{ひとびと}は皆^{みな}立^た
ち上^{あが}がり、ねたみに燃^もえて、 18 使徒^{しと}たちを捕^とらえて 公^{こう}の牢^{ろう}

に入^いれた。 19 とこが、夜中^{よなか}に主^{しゅ}の天使^{てんし}が牢^{ろう}の戸^とを開^あけ、彼^{かれ}
らを外^{そと}に連れ出^だし、 20 「行^いって神殿^{けいでん}の境内^{けいだい}に立^たち、この命^{いのち}
の言葉^{ことば}を残^{のこ}らず民衆^{みんしやう}に告^つげなさい」と言^いった。 21 これを聞^き
いた使徒^{しと}たちは、夜明^{よあけ}けごろ境内^{けいだい}に入^いって教^{おし}え始^{はじ}めた。一方^{いっぽう}、
大祭司^{だいさいし}とその仲間^{ななかま}が集^{あつ}まり、最高^{さいこう}法院^{ほういん}、すなわちイスラエル
の子^こらの長^{ちやう}老会^{らうかい}全体^{しんたい}を召^め集^しし、使徒^{しと}たちを引き出^{ひだ}すため
に、人^{ひと}を牢^{ろう}に差^さし向^むけた。 22 下役^{げやく}たちが行^いつてみると、使徒^{しと}
たちは牢^{ろう}にいなかつた。彼^{かれ}らは戻^{かへ}って来^きて報^{ほう}告^{こく}した。 25 そ
のとき、人^{ひと}が来^きて、「御覽^{ごらん}ください。あなたがたが牢^{ろう}に入^いれ
た者^{もの}たちが、境内^{けいだい}にいて民衆^{みんしやう}に教^{おし}えています」と告^つげた。
26 そこで、守衛^{しゅゑ}長^{ちやう}は下役^{げやく}を率^{ひき}いて出^でて行^いき、使徒^{しと}たちを引^ひ
き立^たてて来^きた。しかし、民衆^{みんしやう}に石^{いし}を投^なげつけられるのを恐^{おそ}
れて、手荒^{てあら}なことはしなかつた。

27 彼^{かれ}らが使徒^{しと}たちを引^ひいて来^きて最高^{さいこう}法院^{ほういん}の中^{なか}に立^たせ
ると、大祭司^{だいさいし}が尋^{たず}問^{もん}した。 28 「あの名^なによつて教^{おし}えてはな
らないと、厳^{きび}しく命^{めい}じておいたではないか。それなのに、お前^{まえ}
たちはエルサレム^{えるさるむ}中^{ちゆう}に自^じ分の教^{おし}えを広^{ひろ}め、あ^あの男^{おとこ}の血^ちを流^{なが}
した責任^{せきにん}を我^{われ}々に負^おわせようとしている。」 29 ペトロ^{ペトロ}とほか
の使徒^{しと}たちは答^{こた}えた。「人間^{にんげん}に従^{したが}うよりも、神^{かみ}に従^{したが}わな
く
てはなりません。

朗読者 「聖書^{せいしょ}を終わります」

詩編

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱えます。

第一五〇編

- 1 ハレルヤ、聖所におられる神をたたえよ＝ 力みなぎる大空におられる神をたたえよ
- 2 その力あるみ業のゆえに神をたたえよ＝ その偉大さのゆえに神をたたえよ
- 3 角笛を吹いて神をたたえよ＝ 琴を弾き、堅琴を奏でて神をたたえよ
- 4 鼓と舞を合わせて神をたたえよ＝ 弦をかき鳴らし、笛を吹いて神をたたえよ
- 5 高鳴るシンバルで神をたたえよ＝ 鳴り響くシンバルで神をたたえよ
- 6 息あるすべてのものは主をたたえよ＝ ハレルヤ

使徒書

朗読者 「使徒書はヨハネの黙示録第一章九節から」

9 わたしは、あなたがたの兄弟であり、共にイエスと結ばれて、その苦難、支配、忍耐にあずかっているヨハネである。

わたしは、神の言葉とイエスの証しのゆえに、パトモスと呼ばれる島にいた。10 ある主の日のこと、わたしは“霊”に満たされていたが、後ろの方でラッパのように響く大声を聞いた。11 その声はこう言った。「あなたの見ていることを巻物に書いて、エフェソ、スミルナ、ペルガモン、ティアティラ、サルデイス、フィラデルフィア、ラオディキアの七つの教会に送れ。」12 わたしは、語りかける声の主を見ようとして振り向いた。振り向くと、七つの金の燭台が見え、13 燭台の中央には、人の子のような方がおり、足まで届く衣を着て、胸には金の帯を締めておられた。14 その頭、その髪の毛は、白い羊毛に似て、雪のように白く、目はまるで燃え盛る炎、15 足は炉で精錬されたしんちゆうのように輝き、声は大水のとどろきのようであった。16 右の手に七つの星を持ち、口からは鋭い両刃の剣が出て、顔は強く照り輝く太陽のようであった。17 わたしは、その方を見ると、その足もとに倒れて、死んだようになった。すると、その方は右手をわたしの上に置いて言われた。「恐れるな。わたしは最初の者にして最後の者、18 また生きている者である。一度は死んだが、見よ、世々限りなく生きて、死と陰府の鍵を持つっている。19 さあ、見たことを、今あることを、今後起ころうとしていることを書き留めよ。」

朗読者 「使徒書を終わります」

一同立つ。

ここで聖歌を歌う。

福音書

司祭 「主は皆さんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖ヨハネによる福音書第二十章十九節以下に記さ

れた主イエス・キリストの福音。主に栄光」

会衆 「主に栄光がありますように」

19 その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。20 そう言って、手とわき腹とお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。21 イエスは重ねて言われた。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」22 そう言うってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。23 だれの罪でも、あなたがたが赦せば、その罪は赦される。だれの罪でも、あなたがたが赦さなければ、赦されないまま残る。」

24 十二人の一人でディディモと呼ばれるトマスは、イエ

スが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。25 そこで、ほかの弟子たちが、「わたしたちは主を見た」と言うのと、トマスは言った。「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。」26 さて八日の後、弟子たちはまた家の中におり、トマスも一緒にいた。戸にはみな鍵がかけてあったのに、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。27 それから、トマスに言われた。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたしのわき腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい。」28 トマスは答えて、「わたしの主、わたしの神よ」と言った。

29 イエスはトマスに言われた。「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」

30 このほかにも、イエスは弟子たちの前で、多くのしるしをなさったが、それはこの書物に書かれていない。31 これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである。

司祭 「主に感謝」

会衆 「主に感謝します」